

耳納風土記⑪ 諏訪神社お粥占いとその記録 ～江戸時代から記録され続ける占い～

早いものでもう3月を迎えました。昨年5月から執筆させていただいた耳納風土記も今回で11回目です。今までご紹介した風土記の記事をざっと振り返ってみますと、筑後川流域に特徴的な屋根の造りを持つ平川家住宅からはじまり、南北朝の戦乱の犠牲者を供養するために建てられた正平塔、7月には災害の記録、8月からは装飾古墳を4回にわたって紹介させていただきました。

年が明けてからは、記憶に新しい方もいらっしゃると思いますが、在郷町として栄え白壁の町並みが残る筑後吉井伝統的建造物群保存地区、山村集落の景観を残す新川田籠伝統的建造物群保存地区について書かせていただきました。何か一つでも興味が持てる記事があったら大変うれしいのですがいかがでしたでしょうか？

今回ご紹介させていただくのは、新川田籠の伝建地区内にある諏訪神社で行われているお粥^{はせべのぶつら}占いとその記録です。諏訪神社は承元元年（1207）の創建で当時の領主長谷部信連が長野県の諏訪大社から勧請したものです。田籠の諏訪神社のお粥^{かゆうら}占いについて紹介する前にまず「粥占」について少し説明させていただきます。「粥占」には2種類の方法があり、一つは中が空洞の竹や茅を米の粥や小豆粥の中に入れ、粥や小豆の入り具合でその年の豊凶を占ったり柳やヌルデの棒に切り目を付けた粥棒に付着する粥の量で豊凶を占う方法です。これらは管粥祭、筒粥行事などと呼ばれ長野県の諏訪大社をはじめ全国的に分布しています。こちらが一般的な「粥占」として広辞苑などにも書かれています。

二つ目の「粥占」は釜や鍋で炊いた米の粥や小豆粥を器に盛り、一定期間神前に供え置いた後、粥に生えたカビの状況を見極めその年の豊凶を占うものです。「お粥占い」

「お粥試し」とも呼ばれ筑紫平野と筑後川流域に広く分布する独特の方法で、田籠の諏訪神社で行われているのもこの方法です。

それではもう少し詳しく田籠の諏訪神社の「御粥占い」を見ていきましょう。毎年、小正月1月15日に3合3勺（約500g）を宮司または総代が炊き、神社の拝殿で陶器の大皿に盛り、竹を十字に組み粥に埋め込むようにして、大皿を4つに仕切り、豊前、豊後、筑前、筑後の札をつけ御粥箱に納めます。現在は四地域の地名が東西南北の札になっています。その後、粥を納める神事を行い、3月30日の粥開きの神事まで本殿に供え置かれます。2か月半供え置かれたお粥はその間の気候の影響を受けながら様々なカビを作り上げます。



お粥に生えたカビの様子

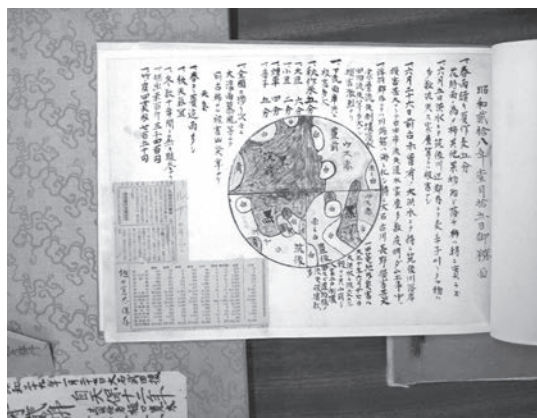
3月末の粥開きは宮司と神社の総代の方々で行われ、神事のあとで本殿から取り出された御粥箱を拝殿で開き、その年の豊凶、気候の具合、疫病の具合などをお粥に生えたカビを見ながら話し合います。青カビは雨や水害、赤カビは火災・日照り、黄色のカビは干ばつに注意というように判断していきませんが、作物の実りをみるうえでは、黄色のカビは豊作とされます。黒カビはよくないとされ、不思議なことに昭和28年（1953）の筑後川の大水害の年の粥開きでは筑前筑後に真っ黒なカビが生えていたことが記録されています。

さて、このお粥占いですが江戸時代から現在まで、お粥に生えたカビを詳細に描きとった絵図と占いの記録文書が残っています。記録がはじまったのは天明2年（1782）の大飢饉がおこった年からですので、238年間の占いの記録が残っているのです。記録されているのはお粥に生えたカビの絵図と年末に記されたその年の事実や農産物の出来で、儀式として続いてきた粥占いの一面だけでなく、230年以上の時の流れを読み取ることができ大変興味深いものです。文政11年（1828）は5月と7月に大洪水、8月に台風が襲来し、米の値段が高騰したこと、また被害実態も詳細に記されており、家屋の倒壊数や人的被害、当時の農業に欠かせない牛馬の被害状況などが記されています。時には供え置かれたお粥にネズミが侵入して食べてしまうこともあり、明治41年（1908）にはすべて食べられ、「御粥面全ク喰イ粥一粒モナシ」と記録されています。

記された農産物の種類からも時の流れを読み取ることができます。例えば^{はぜ}櫛の出来が記されるようになったのは、弘化2年（1845）で、当時櫛蠟業で大変な財を成した吉井の存在がうかがえ、また、大正時代には養蚕の出来が記されるようになりますが、当時の大石村には筑豊製糸工場が設立されており、養蚕と製糸が盛んだったことがうかがえます。

この記録は「お粥占い面絵録附御粥箱」としてお粥を供え置く御粥箱とともに昭和39年（1964）福岡県の有形民俗文化財に指定されています。粥占いは現在も各地で行われている行事ですが、このように記録が残っているだけでなく現在も記録が続いているは稀なものです。

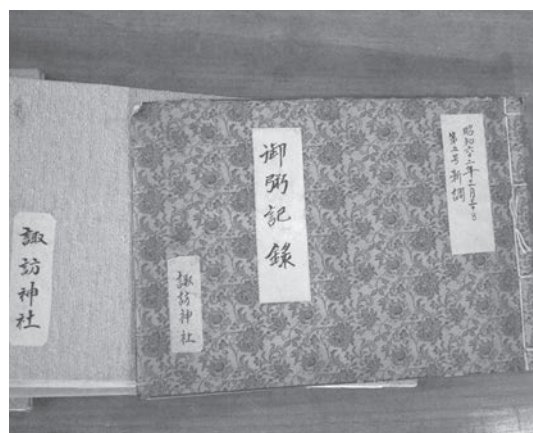
さて、今年のお粥はすでに御粥箱に納められ3月30日のお粥開きを待つのみとなっています。目に見えないウイルスやいつ来るかわからない天変地異など色々ありますが、今年の粥開き、どんな結果を残すのでしょうか。



昭和28年の粥面
(筑前と筑後に黒カビが生えている)



平成21年の粥占いの様子



お粥占い面絵録
(天保から現在までの粥面が記録されている)

今年の「粥占」は令和3年3月30日（火）13:00から行います。（粥開きは13:30頃）
観覧される方は、感染予防対策を行ったうえ、ご参加ください。

●問合せ 生涯学習課 文化財保護係 ☎75-3343